



# チャペル・アワー案内

2014年12月1日

No.226

同志社大学  
キリスト教文化センター

京田 辺  
0774-65-7370  
今出川  
075-251-3320

秋学期チャペル・アワー統一テーマ

「愛によって互いに仕えなさい。」

(ガラテヤの信徒への手紙5章13節より)

もし宝くじで1億円当たったら皆さんはどのように使われますか。学費を払う、洋服を買う、旅行に行く……などを挙げられるのではないかと思います。実際のところの使い道は千差万別でしょう。お金の使い道には、その人の生き方や価値観が表れるからです。

この手紙を記したパウロというキリスト者は、ここで神様からももらった「1億円」のより良い使い道について語っています。それが「愛によって互いに仕えなさい」です。この場合の「1億円」はもちろん実際のお金ではなく、皆さんのもっている「命」であると言えらると思います。

「命」は少しずつ減っていきます。それを皆さんはどう使いますか。学費を払うためにバイトするもよし、素敵な洋服を買うもよし、旅行に行つて楽しむもよしです。ただ「命」を自分だけのために用いるのみの人生は少し寂しいですね。聖書はあなたの「命」が最も輝きを放つのは「愛によって互いに仕える」用い方があると語りかけています。

(キリスト教文化センター非常勤スタッフ)

日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師・渡辺 圭一郎



Romanian Hand-held Cross

切り絵 中谷隆志

# 今出川校地

# 時間&場所

## 今出川火曜チャペル・アワー

毎火曜日17時30分から

神学館礼拝堂

## 今出川水曜チャペル・アワー

毎水曜日10時45分から

クラーク・チャペル

## 今出川金曜ランチタイム・チャペル・アワー

毎金曜日12時35分から13時まで

同志社礼拝堂

## 京田辺水曜チャペル・アワー

毎水曜日10時45分から

キリスト教文化センター集會室  
(知真館1号館111番教室)

## 京田辺金曜ランチタイム・チャペル・アワー

毎金曜日12時35分から13時まで

キリスト教文化センター講座室  
(夢告館西隣建物 キリスト教文化センター内)

# 京田辺校地

## 火曜チャペル・アワー

1/20	1/13	1/6	12/23	12/16	12/9	12/2	月/日
池田聡美	音楽礼拝 (同志社教職員合唱団)	柳井一朗	原田博充	マリーサ・メンセンディーク	シユベネマン・クラウス	山崎知行	奨励者
大阪YMCA国際専門学校 高等課程主任		日本キリスト教団洛西教会牧師	京都みぎわキリスト教会前牧師	社会学部准教授 アドベント讚美礼拝	同志社大学名誉教授 アドベント讚美礼拝	日本キリスト教団大阪教区 アドベント讚美礼拝 核問題特別委員会委員	

## 水曜チャペル・アワー

1/21	1/14	1/7	12/24	12/17	12/10	12/3	月/日
山口洋典	山口恒	和泉真澄	クリスマス特別礼拝※	仲程愛美	熊谷沙蘭	大門義和	奨励者
立命館大学 共通教育推進機構准教授	日本キリスト教団浪花教会牧師	グローバル地域化学部教授		日本キリスト教団石橋教会牧師 アドベント讚美礼拝	京都丸太町教会司牧師 アドベント讚美礼拝	日本キリスト教団隠退牧師 アドベント讚美礼拝	

## 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

1/23	1/16	1/9	12/26	12/19	12/12	12/5	月/日
越川弘英	中野泰治	入順子	月下星志	望月修治	越川弘英	石川立	奨励者
キリスト教文化センター副所長	神学部助教	日本キリスト教団京都教会副牧師	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師	日本キリスト教団同志社教員牧師 クリスマス礼拝	キリスト教文化センター副所長 アドベント讚美礼拝	キリスト教文化センター所長 アドベント讚美礼拝	

## 水曜チャペル・アワー

1/21	1/14	1/7	12/24	12/17	12/10	12/3	月/日
栗原宏介	稲岡恭二	三好三恵子	関谷直人	金伽耶	栗原宏介	垣内純子	奨励者
日本キリスト教団奈良教会牧師	理工学部教授	同志社女子中学校・高等学校音楽科講師	神学部教授 クリスマス礼拝※	同志社女子中学校・高等学校嘱託講師 同志社国際中学校・高等学校嘱託講師 アドベント讚美礼拝	日本キリスト教団奈良教会牧師 アドベント讚美礼拝	六甲学院宗教科非常勤講師 平安女学院理書科非常勤講師 アドベント讚美礼拝	

## 金曜ランチタイム・チャペル・アワー

1/23	1/16	1/9	12/26	12/19	12/12	12/5	月/日
三木メイ	渡辺圭一郎	大塚泰恵	韓守信	尾島信之	三木メイ	渡辺圭一郎	奨励者
キリスト教文化センター助教	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師	日本キリスト教団宇治教会副牧師	日本キリスト教団長岡京教会牧師	日本キリスト教団和郡山教会牧師 クリスマス礼拝	キリスト教文化センター助教 アドベント讚美礼拝	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 アドベント讚美礼拝	

※12/24の京田辺校地のクリスマス礼拝は、京田辺校地キリスト教文化センター内ラウンジ(夢告館西隣建物)で行います。

※12/24の今出川校地のクリスマス特別礼拝は同志社礼拝堂にて、18時30分から開催いたします(同志社教会イブ礼拝との共催)。

## 『世界情勢と身近なこと』

廣田 健

今後、全地球的規模で現在の文明・文化水準を維持するには、「エネルギー・水・食料」が必要不可欠なモノと言われているが、最近の世界の情勢（フィリピンで台風30号による風水害、米国カリフォルニア州の猛暑、山火事、ブラジルでの記録的干ばつ）や、日本の災害（広島県の大雨による土石流、御嶽山の噴火）等を見るにつけ、これら以外にも、大気圏（気候）、水圏（淡水・海水・海流）、地圏（火山・地震）等への対策が重要な課題と思われる。大気圏としては地球温暖化の気候変動、水圏としてはエルニーニョ現象、北極海・南極大陸での氷山・氷床の融解、地圏としては環太平洋ベルト地帯の火山噴火や地震等が挙げられる。また、地圏での大規模な変動としては、今後、南北磁極の反転が短時間で起こるといふ（地球古地磁気学者の言葉）。ただし、この短時間というのは地球的時間スケール（約46億年）に対する短時間の約1万年の間で生じることであり、20年前の阪神淡路大震災も3年前の東日本大震災も、地球の時間軸で見れば殆ど同時に発生したことになる。

最近では、地球温暖化による異常気象が多くの「危機」を生み出し、温暖化対策に消極的でありながら、世界のCO<sub>2</sub>排出量の約4割を占める米国や中国をして「大量破壊兵器」（米国ケリー国務長官）と言わしめるところまできている。因みに日本は第5位のCO<sub>2</sub>排出国であり、CO<sub>2</sub>排出を抑制したエネルギーの確保が最重要課題となっている。今更甚す、水と食料不足から生じる飢餓や、それらの争奪戦、貧しい衛生環境から起きるエボラ出血熱のような致死性の高い伝染病等が世界各地で頻発してくると思われる。

振り返って、身近なところでのこれらの危機に対する対策としては、大学での自分にかかわる研究として、「省エネルギー対策に関連する新規素材」、「淡水の飲料水への適応化関連素材」の開発等であり、個人の生活レベルでは、食料・水の備蓄や省エネルギー機器の使用等という微々たる貢献しか見いだせない。しかし、16年間の民間企業での製品開発から大学教員への転職時に、同僚や上司から「企業での開発に成功した『材料』は、高々10年か長くて20年の寿命。大学での学生教育の成果は、それに比べて20年や30年後に現れるので、素晴らしい『人材』を創るのは、夢があつて楽しみが多いのでないか」と言われた言葉を思い出し、今後の学生の皆さんの活躍を期待することが小職の地球環境対策と考えている。

キリスト教文化センターでは、同志社を見つめ、そして自らを省みる2泊3日のプログラム「安中・会津キャン」(Doshisha Spirit Tour)を2014年9月10日から12日に実施しました。

今回の安中・会津キャンでは、新島学園中学校・高等学校、新島学園短期大学、新島家旧宅、有田屋、安中教会、山本覚馬・八重生家跡地、鶴ヶ城、会津若松教会といった、新島襄・八重ゆかりの地を訪問しました。キャンに参加した学生12名の感想を紹介します。

◆新島の精神を体感できたことが、一番良かった。  
入学直後や授業のなかでキリスト教や新島・同志社についての話をたくさん聞いたが、今回のキャンで実際に教会・新島学園・史跡を巡るなかで学んだことが、一番印象的で記憶に残った。

◆かなり慌ただしい旅であったが、どこに行っても印象に残る中身の濃いキャンだった。同志社・安中・会津のつながりの深さをほんの少しだが理解でき、改めてこの大学の学生で良かったと思った。

◆同志社や新島襄の精神が現在でも広く伝わり続けていることに感動した。もっと同志社ができた経緯、新島襄がこの学校を建てたときの想いを理解し、胸を張って自分の学校を自慢できるようにになりたい。

◆プログラム中にいろいろな人達と話す機会があるだけではなく、講義形式でこれからの人生のためになる内容が聞け、また、自分一人では行くことができないような所を見学することもできたので良かった。



◆交流会で、美味しいお料理をいただきながらOB・OGの方々とお話できたことがとても印象に残った。また、パイオルガンの音色がもとと好きだったので、新島学園のパイオルガン演奏の迫力に圧倒された。

◆新島ゆかりの地を訪れ、知識や教養を深めて、同志社をより一層好きになり、同志社人としての意識が強まった。プログラムのなかでもみんなと協力でき、特に交流会ではフル回転で動き、無事終了したうえに、たくさんの人に好評で、達成感が嬉しく、自信がたった。

◆新島夫妻ゆかりの地を、写真等で見るだけではなく実際に訪れて空気を肌で感じられたことさらに、さまざまな人びとがその地でそれだけの思いをもって生きていたことを感じ、とても感慨深かった。その思いを胸に、決意をもって今後の社会人生活を送り、夢に向かって進みたい。

◆自分の大学について何も知らない、という理由で参加したが、今なら、同志社を創設した新島



襄がどんな人物か話せる気がする。また、言葉で伝えるだけでなく、キャン終了後の自分がどう変わるかでも、同志社の学生としての誇らしい姿を、周囲に広げていけると思う。

◆交流会が特に良かった。卒業後長い時を経て、変わることなく同志社を大切にされている姿を見て、自分の立場を思い知らされた。これからは、同志社の立場がかわった一員として、私が同志社の精神を語り継ぎたい。

◆さまざまな学部の参加者と交流ができ、とても楽しかった。新島襄のことは随分分かっていてると思っていたが、まだまだ知らない、細かいことが学べて良かった。同志社は本当にいろいろなところでつながっているのだと実感した。

◆新島襄について、本当に以前より詳しくなれたので嬉しい、これからもっと勉強していきたい。また、会津若松で解散した後、いろいろな所に行ける点も面白い。学生企画のプログラムでは、とても緊張した。

◆物理的な距離があっても、同志社・新島襄の精神を同じく共有する人たちが大勢いることが分かり、良かった。新島襄という人物を通すことで、「同志社」という学校としてのつながり以外にも、安中や会津若松の教会あるいは新島学園との関連性も見いだせることが新たな発見だった。

